

税は搾取するものではなく支えあうもの

三条市立第一中学校 三年 田浦 琉聖 たうら りゅうせい

先日、興味のあつたマンガを買ったときのレシートを見返して、消費税の高さに驚きました。値札には五百二十円だったのに、レジで支払うときは五百七十二円と五十円以上も高くなっていました。「もし消費税がなかったら、もっと安く買えたはず。」と私は損した気分になりました。子どもでも気軽に買える価格だったのに、今ではちよつとした出費になり、あまり手が出せません。母に話すと「私が子どもときは消費税がなかったんだよ。」と言われ驚き、消費税の歴史に興味湧いて実際に調べてみようと思いました。

調べてみると、日本で初めて消費税が導入されたのは一九八九年で、最初は三パーセントの税率でした。その後、税率は段階的に引き上げられ、二〇一九年に現在の十パーセントになりました。物の値段が変わらなくても、税率が上がると支払う金額は増えます。私がマンガを買ったときに感じた「ちよつと高いな…」という違和感も、この消費税の歴史の中に含まれていると思います。

また、消費税について、世間では「負担が増えるもの。」という悪い印象を持つ人も多いですが、調べると「国民から公平に税を集めるため。」という理由があるとわかりました。税金には、いろいろな種類があり、消費税はすべての人が平等に負担する仕

組みです。一方、所得税は収入が多い人ほど税率が高くなるため、負担の割合は人によって違います。当時は所得税が収入の中心で、働く世代に税の負担が偏っていることが課題でした。だから、消費税の導入に反対の声もありましたが、税をすべての世代が平等に支え合つていくために導入が決まりました。

昔は消費税がなかったと聞いたときは、昔のほうが生きやすかったのではないかと思います。しかし、税金は公共サービスや社会保障制度を維持・充実させるために欠かせないものであり、私たちが快適に暮らすために必要だと考えます。だから、みんなが納得して納税できるように、税の仕組みはその目的や性質に応じた工夫されています。

例えば、消費税は誰でも同じ税率で平等に集める税ですが、所得税のように個人の収入に応じて税率を公平に調整する税もあります。このように税の種類ごとに異なる仕組みがあるのは、多くの人が納得して支え合う社会を目指すためだと考え、私は消費税に対する考え方が少し変わりました。

そして、私が何気なくマンガを買うのではなく、税が本当に役に立っているのかと考え、税を納める重要性を再確認しました。税を納める社会の一員として、税の種類や使い道を調べ、ただ批判するのではなく、まずはどこに使われているのかを考えることが大切です。

最後に、税金はむやみに国民から搾取するものでなく、私たちの未来をより良くするための大事な仕組みだと思います。みんなが支え合う社会をつくってほしいと願っています。